

様式1															
令和7年度 学校評価表															
学校教育目標		心豊かで ねばり強く 正しく たくましく社会を生き抜く生徒を育成する													
a ミッション		小中連携教育の充実による系統的で魅力ある教育の実現				a ビジョン		○ワクワクする学校 ○成長し続ける学校 ○規律と温もりのある学校		尾道市立吉和中学校					
評価計画						自己評価				学校関係者評価		改善計画			
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h	i	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						g 達成値	g 達成値	達成度	評価		イ	ロ	ハ		
資質・能力の育成	誰一人取り残さない学びの保障をするために、生徒指導と教科指導の一体化した授業改善を進め、生徒の基礎的・基本的な学力の定着と主体的な学びを進める	ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり、学習集団づくりを通して、生徒が「分かる」「できた」と感じられ、意欲的・主体的に学習に取り組む態度の育成をはかる。	①「わかる」「できる」授業づくり ・学ぶ必然性のある課題設定 ・ねらいの明確化と流れの可視化 ・生徒の実態に合わせた主体性を引き出す工夫 ② かわわり合いの充実 ・思いや考えを伝え合う場面の設定 ・学びの定着するための教え合い活動 ③小中連携 ・小中学校との互見授業の実施 ・小中学校合同研修の実施	①②③生徒アンケート「授業では、挑戦と失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組んでいる。」の項目のスコア平均値（5段階）	年度初め比+0.2	4.2 (年度初め比+0.1)	98	B		どの教科でもユニバーサルデザインの視点といた授業改善に取り組むことに基づき、特に「聞く」カードを用いるなど、他の力の習得を可視化するなどし、「聞く」ことにこだわりをもった取組をすることができた。 授業の中で、考えの交流や教え合いなど、さまざまな「かわり合い」の場を設けることにより、安全・安心な環境をつくるために、今後は、個別して課題を解決する場を増やしたり、さまざまな人とかわり合うことができるよう授業のなかかわり合いの場の設定をし、より学習の意欲がわくような授業ができた。 小中連携では、8月に合同研修を行い、取組の交流や共通して取り組むことなどの協議をすることができた。	8		・今年これまでやったことが身をつぶすには、今後も継続することが必要だと思います。2学期は行事も多いと思いますが、やりきってほしい。 ・小中連携により、情報を共有するなど、継続をしてほしい。 ・あつ・できる授業づくりは、昨年も目標にわたるが、昨年よりどれほどの進展があったのか。	教員の話す量を減らしたり、「号令したら5秒黙る」など、この「聞く」カードの効果的な利用法やうまくいった授業の工夫を共有した利用法を共有したりして授業改善につなげる。 ・協働して課題を解決する場を増やしたり、さまざまな人とかわり合い合っているように意図的な場を4人班にするなど、より協働して学びに向かう環境をつくる。	
		家庭学習の習慣化や繰り返し学習と、個別最適な学びや協働的な学びを進め、基礎的な知識・技能を定着させる。	①基礎基本の徹底を目的とした「がんばり」学習の充実 ②「がんばり」と連動した小テストの実施 ③生徒の必要感に応じた学習部屋の設置および補充学習の実施	①②小テストの平均通過率 ③生徒アンケート「授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる」のスコア平均値（5段階）	①②通過率80% ③年度初め比+0.2	①②71.7% ③4.2 (年度初め比+0.2)	82	B		授業理解度の確認や基本的な知識の定着を図るための「がんばり」学習を実施しているが、取組状況に課題がある。また、「がんばり」と連動した小テストの平均通過率もほとんどの教科で目標値を下回っており、難易度にも課題がある。「できた」と実感させるために、問題の量や難易度を見直し、必要に応じて「静かに勉強する部屋」と、学年ごとの「教え合いをしながら勉強する部屋」を設置し、必要に応じて実施した場所での放課後学習を実施することができた。 定期試験時に「静かに勉強する部屋」と、学年ごとの「教え合いをしながら勉強する部屋」を設置し、必要に応じて実施した場所での放課後学習を実施することができた。	8	・小テストの実施等、細かな指導をしていたおり、成果は今後加速度を増して出てくるであろう、出てほしい。 ・小テストで誤りの多い問題を中心に書いてみてはどうか。 ・実態はよくわからないが、取組の説明・報告を受け、現状や課題がしっかりと認識されており、適正であると認める。 ・学習部屋の設置はとても良いと思う。 ・学習調査の結果を全国との比較ではなく学校の学力の向上に目を向け、学力向上の取組をしてほしい。	がんばり小テストについては、どのような取り組み方をしているかの職員間の交流をしたり、がんばり小テストや課題の難易度や量を見直ししたりして、全員がよりよくなったという状況を実現できるように改善する。また、取組状況を評価できるように徹底していく。 「静かに勉強する部屋」と、学年ごとの「教え合いをしながら勉強する部屋」の設置を継続するとともに、質問教室も実施する。また、3年生の受験に向けた対策講座も実施する。		
生徒指導の充実	生徒の主体的な絆づくりを推進し、積極的な生徒指導を進め、安全・安心な温かい人間関係を構築し、生徒の「本気」を引き出し、豊かな心を育てる	教育相談、道徳教育を充実させ、生徒に寄り添いねばり強く心に響く生徒指導に取り組む、行きたい学校づくりを進める。	①学年担当・生徒指導主事・教育相談コーディネーターで細かな情報共有を行い、月に1回ケース会議を実施して、次月の取組を決める。 ②担任以外の教員との全員面談、SCによる全員面談などを通じた教育相談機会の充実を図る。また、ソーシャルスキルトレーニングや道徳教育による相互理解により、相談する力の育成を図る。	①長期欠席生徒 ②生徒アンケート「信頼できる友人・大人がいます。」「困ったときには相談して解決できる。」の項目 肯定的評価	①5人以内 ②90%	①3人 ②90.6%	101	A	長期欠席（30日以上欠席）の生徒数は3名にとまわっているが、7月末時点で10名以上欠席している生徒が3名4年、2年2名、1年2名もいる。教育相談体制の充実により、生徒アンケートの結果は目標値を達成しているが、生徒1人1人の課題は目標値と比べてある程度ある必要があり、相談できる関係者や、生徒1人1人の自己指導能力を身に付けるために、個別の声かけや相談機能のさらなる充実を図る必要がある。 1年生95.2%、2年生100%、3年生90.9%となった。1年生は、授業中での忘れ書きには課題があるが、体育大会では他の大ききや力でも大きな良い面が目立った。2年生は生徒アンケートの結果はよいが、教員側から見た動きには課題があり、課題の動きが小さくまとまりがなかった。3年生は、2年12月のアンケートでは72.2%だった項目が90%を越えた。3年としてリーダーシップを発揮し、自分たちが行きたいようにしようという生徒が増えたと考えられる。	8	・長期欠席が生徒のアンケートにもよっているのかもしれない。また前年度より、自分自身で生徒の欠席は、アンケートはよくあります。宿題の多いものが多いです。 ・新1年生の動きが気になります。中・高学年の指導が3年間の基礎になります。 ・しっかり指導してほしい。 ・長期欠席者が減少するなど、引き続き相談体制を維持してほしい。 ・生徒会における相談機能があるが解決に向けた取組が進んでいるが、6月時点で目標値を達成している状況は、1年生の欠席が減少している。 ・継続しているユニバーサルデザインは継続を継続させる必要があり、生徒が自由な動きを促すことと、長期欠席者も減り、生徒が主体的に行動するよう努力を継続したい。 ・生徒のアンケート結果が良くてもアンケート向けの回答があることを重視し1人1人の課題に向き合う時間が必要ではない。	・ケース会議による生徒の支援方法の検討や教員やSCとの全員面談を引き続き実施し、相談体制を維持する。生徒との日常的なかかわりの中で得た情報や家庭訪問を通じて情報も、教員間で共有して対応していくことで、長期欠席生に対する課題のある生徒への支援を行う。 ・生徒が授業で自分の思いを伝えたり、相手の気持ちに寄り添ったりする力を育成するためのソーシャルスキルトレーニングを実施する。			
		学校行事や生徒会活動など体験学習（特別活動）を充実させ、生徒の「本気」を引き出し自己指導能力を育成するために、集団づくりを進める。	①生徒が自分たちで考え、全校生徒がよりよい学校作りに携わることができる行事計画や生徒会活動を行い、生徒の本気を引き出す。 ②生徒の頑張りを掲示物を通して共有し、リーダーの思いや生徒1人1人の目標を共有できる機会を増やす。	①②生徒アンケート「学校行事に本気で取り組んでいます。」の項目 肯定的評価	①②95% ③94.9%	99	B	・生徒会を通じて課題解決の方策を検討してはどうか。 ・3年生はリーダーとして頑張っていたが、やはり体育大会が6月開催になったことで、リーダーシップを取り切れていないように見えた。	行事を通じたリーダーの育成機会を充実させた上でなく、今までリーダーをしてこなかった生徒の中にその頑張りを認める機会を増やす。 ・行事だけで頑張るのではなく、集会の場や委員会活動において、生徒が自ら課題を見つけ、解決するための行動を起こすことができるように働きかける。						
吉中太鼓	教育活動の核として身に付けた力を様々な場面で発揮させ、生徒同士、保護者や地域、教職員と響き合う	吉中太鼓で地域や学校、自分に誇りを持たせ、日常生活や将来に繋がる心や所作を育てるとともに、感謝の気持ちを行動で表現できる生徒を育成する。	①吉中太鼓の活動を通じて、自分たちで課題解決する場面を充実させることで、日々の学校生活の中の課題も解決できる生徒を育成する。 ②太鼓取組の中で、礼儀作法や吉中太鼓の歴史や伝統を継承させることの重要性を理解する。	①生徒アンケート「日々の課題を自分の力で解決しようとしている。」 ②生徒アンケート「吉中太鼓の授業に意欲的に参加しています。」の項目 肯定的評価	①90% ②95%	①91.0% ②89.7%	101	①A ②B	②について、1年生95.2%、2年生91.7%、3年生84.8%となった。1年生は、太鼓の授業が好きな生徒が多く、集合が早かったり、聞く姿勢がよかったりする。これらの姿勢を学校生活全般につけていくことが期待となる。2年生は男子の動きが声の大ききで特徴があり、女子は少しは声出しに課題があったが、1学期終盤には少しずつ声を出す生徒が増えてきた。3年生は、2年12月のアンケートでは69.4%だった項目が84.8%まで伸びた。体育大会や地域の行事の機会に意欲的な役割を担ったり、人に見せるために努力をする生徒が増えてきた。 現在は太鼓の授業でのあそびが充実しているように、学校委員会でも取組を行っているが、まだ成長の余地がある。	8	・すばらしい。7月6日有志による奉納、吉和の風景にマッチしていました。 ・将来の社会の一員となる上で団体行動の貴重な体験の機会であり、課題を全学年で話し合っている。 ・3年生の意欲的に参加しているが多学年に比べ低いこととの理由は何が把握できているか。イメージ的に3年生になると太鼓への情熱があると思うが、今年の3年生は意欲がない生徒が多いのか。	太鼓の活動を通じて、どんな自分になりたいかを考えることで、太鼓の目標を達成するだけでなく、進路のことや将来どうしたいかを考える機会を設ける。 3年生がリーダーとして、太鼓での活動や学校生活全般に活かせるように働きかける。また、後輩にとって憧れられる先輩となるように指導する。 1・2年生は、披露の機会が少ないが、3年生の演奏を見せたり、聴いたりすることで、自分達が3年生になってどんな太鼓を打ちたいかやどんな先輩になりたいかを考えさせていきたい。			
		個業とならないよう、情報共有をはじめ積極的にコミュニケーションを図りながらチームで動き、職員がお互いに頼みやすい職場づくりを進めるとともに、長時間労働を解消する。	①日々の情報共有を密にし、学校経営会議、分掌会、学年会等を充実させることを通じて、主任主事を中心としてチームで動く。 ②衛生懇話会において、業務改善の具体的な方法について議論し、業務改善を推進する。（月1回）	①②市教委実施の働き方改革アンケートの質問項目「日々の業務の中で充実感を得られている」が約40%、「管理職や主任・主事は、教職員の業務の進捗状況を把握し、必要に応じて業務分担の見直しや進捗調整等を行っている」の項目 肯定的評価	①②80%	46.7%	58	D	・多忙となっている業務は何か。また他の職員への対応は可能なものかとの協議ではないのか。 ・吉和小教職員と学校運営協議会のより一層の連携も必要。 ・コミュニケーションを図りながらチームで動くことは素晴らしい。 ・学校全体で経験が少ない若い先生が多いと思う。日々の業務に多忙感を感じ余裕がないように見える。	衛生懇話会において、個々の職員の状況を把握し、状況に応じた対策を考える。具体的に、状況が多くなっている職員の業務を他の職員に割り振ったり、管理職、主任・主事が事前に助言をするといった業務の負担を軽減する。また、業務改善について、全体の業務削減につながる具体的な案も実行する。 日頃の充実感の向上については、生徒の成長や課題解決の姿など意図的に認識できるように管理職による評価をする。また、日頃の業務がどのようなように生徒の成長に役立っているのか、管理職、主任・主事等から声掛けを行う。					

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。